

第51期 港支部活動方針案

今期スローガン: 不易流行

東京中小企業家同友会 港支部の歴史を少し振り返ると、創設1972年の小駒健 初代支部長の22名から徐々に会員数は増え、1991年第4代浅井雅好支部長の時代には会員数は162名にまで増え続けました。

その後、時代とともに会員数も推移し、2000年第6代石山隼人支部長の頃からは支部会員100名前後の会勢を維持して現在にいたっております。



また、過去数年を振り返ると、不況下、コロナ禍であることも影響してか今まで以上に自社の経営体験報告

を基本とした例会づくりや、委員会・部会と連携した支部活動を通して、支部会員同士の関係性も高まってきております。

昨年度は、飯田支部長のもと小グループ活動によってそれぞれがリーダーシップを発揮し、会員同士がコロナ禍においても綿密に連携する方法を模索し、更に関係性を高め、お互いの経営課題の共有ができる体制を整えて来ました。

2021年の支部活動ならびに小グループ活動などを通して浮き彫りになった課題には以下のようなものが挙がりました。

1. 会員(新会員)がうまく同友会を活用できていないのではないか
2. 前年から始まった小グループ活動の本来の目的が達成できたのか
3. 会員同士の連携や例会づくりをどのように行うか

同友会活動を通して港支部会員がどのような事を求めているのか、現在同友会活動を積極的に行っている会員は同友会活動から何を得て、どのように自社に活かすことが出来ているのかが少しずつ見えてきました。

2022年港支部では、次のような活動を通して今までの同友会活動の基本を大切にしながら、新しいものを柔軟に取り入れていく「不易流行」をテーマに支部会員が互いに連携し活気ある支部にしていくことを宣言いたします。

1. 事務局、支部長、幹事長、各小グループリーダーが主体となり、新入会員を入会初期段階でフォローする必要がある。新入会員の経営課題から今後の同友会内での活動の初期段階におけるサポートを行う。
2. 小グループは昨年度のグループを踏襲し、積極的に会員を招待。リーダーは会員同士の関係性の向上に努める。グループは、おおむね10名程度を目処にグループを分割し新たなグループを設立する。
3. グループリーダーはこまめに横の連携を図り、情報の共有、グループ間の交流を積極的に行う事で支部会員同士の連携、交流の円滑化に努める。
4. 例会づくりは小グループが担当し、会歴の浅い会員にも平等に例会づくりの機会を与えることで、体験報告から学ぶ同友会ならではの学びの場を経験する。
5. 成文化セミナー修了生による「人を生かす経営と向き合い続ける会」など、小グループの枠にとらわれず、会員同士が気軽に経営課題を持ち寄り語り合える場を提供する。
6. 広報活動としては、ホームページに定期的に例会の告知、報告、会員情報などを掲載することで、支部の活動を内外にしらしめる。
7. 港支部会員の交流の場として、納涼会、忘年会の他にも不定期に懇親を図ることのできるような場を設ける。

小グループ	聴こう会チーム	豊田 安昌 氏	例会等
	ナイトチーム	小松 玄 氏	例会等
その他	人を生かす経営と向き合い続ける会	末永 寛志 氏	成文化補講等

以上